

住民説明会 4月16日(日)第6回 森山 18:00~

※森山防災センター 26名参加

【高規格救急自動車研究開発事業】

Q： 引地町長の政治理念、その姿勢、まちづくりへの思いは熱い熱意が伝わってきます。常に国見町、それから我々町民の利益を考える政治を行っている。だから、一連の問題もふるさと納税で高規格救急車をつくり、要望ある自治体にリースで貸出しその利益を町のため、町民のために活かそうと判断したものだと思いますが、いかがなものでしょうか。

A： おっしゃる通りで町を悪くしようと思って今回の事業を行ったわけではなくて、この高規格救急自動車をリースしている事例はなく、もしかすると全国で初めてだったかもしれません。そういった他の自治体がやっていなかったことをやることで町のイメージアップ、あるいはこの地域の安全安心、救急体制の構築に役立てたいと思っていました。

Q： 金額もさることながら、なぜ12台にこだわったのでしょうか。普通だったら1~2台で始めても消防署で大体同じような規格の消防車を使っているわけですから意見はどんどん出てくると思います。

A： 企業から指定された寄附の使い道について町として事業を検討しました。企業から4億3,200万の寄附を受けて高規格救急自動車を研究開発するといったときに12台可能だということで、事業を進めました。

Q： 何で金額にこだわるのか。1、2台だけでも良かったのではないのでしょうか。寄附が集まったから使いましょうというのは、家庭で考えたらおかしいと思います。もらったら全て使えばいいというものではないと思います。

A： この企業版ふるさと納税の制度が、自由な用途で使うことは制限があります。今回は研究開発を通じて地域の防災力を向上してくださいということで企業から寄附をいただいたということです。

Q： ワンテーブルから寄附を受けたのではないですか。

A： 違う会社です。

Q： どうして寄付を使い切らなければならなかったのでしょうか。

A： 東日本大震災など災害の被害があって、イメージアップを図るために開発してくださいということで寄附を受けました。町として色々と考えたときに救急車を12台研究開発して寄附金額を使い切るように考えました。例えば4億もらって、2億だけ使ってあと2億貯めて違うのに使うということが制度上できません。

Q： それはおかしいのではないのでしょうか。国の制度を変えていかないといけないと思います。

A： 制度上このようになっていますので、ご理解いただければと思います。さまざまな意見があるということでどんどん変えていくことは必要かと考えます。

Q： 事前にこの会社を調べなかったのですか。やはりうまい話には何かあると考えるのと。

A： 民間の力を借りて事業を行う場合、今回の反省点を踏まえて、今後こういうことがないようにきちんと調査をします。

Q： 今後はリースをやるのですか。

A： リース事業については、島田社長の発言があったため今後リース事業を展開するのは困難だろうと判断をしました。今後、高規格救急車は寄附し、救急車の改良に活かしていくということで、定期的に寄附先から使用状況や改造が必要などころ等の意見の吸い上げを行っていきたいと考えています。

Q： バージョンアップは各自治体でやるのですか。

A： 利用している自治体等と情報を共有して、今度更新をする際にそういう情報を活用してもらおう形になります。

Q： 救急車を改造する改造費は誰が負担するのですか。

A： 寄附先で改造します。

Q： 国見町としては寄附をしたら、あとはノータッチということですか。

A： 情報は共有化しますが、それ以外はノータッチです。

Q： 去年11月の議員懇談会の森江野地区に出席しました。そのときにこのワンテーパーという会社の名前や高規格救急車の話題が出て、議員さんに質問したのですが、詳しい内容は分からなかった。分かる範囲で聞いた中では今の説明内容と若干異なり、リースしてもそのリース料さえも、ワンテーパーに入るとのことでした。国見町のメリットは何があったのでしょうか。リース事業については具体的

にどんな事業計画を組んだのでしょうか。

A： 研究開発をして令和5年度からリース業をするということを当初から考えていました。町に対するメリットは、リース料を令和5年度の歳入で見込んでいました。年間60万円です。リースと同時にデータを集積するという目的もありました。また、リース関連等の企業が町に進出してくれるのではないかと考えました。

Q： 企業を呼び込むというような話はこの中に一切出ていません。ちゃんと最初から説明する必要があるのではないのでしょうか。後付けで聞かれたから回答するのは駄目だと思います。

宮城県亘理町も解約しました。ワンテーブルがどんな会社だったのかを説明しなくてはいけないと思います。報道を見ている人は分かるけど、見てない人は分からないと思います。自分たちが被害者じゃなくて丁寧に資料で説明すべきです。

A： 企業の誘致関係や雇用の関係の説明が漏れていました。大変申し訳ありませんでした。

Q： 一連の報道がされていますが、なぜワンテーブルの社長に確認するなどをしていないのですか。その説明もなくいきなり契約を解除しているのはどうしてですか。

A： 報道があってから、ワンテーブルの代表取締役を呼んで確認をしました。確認した後に音声データが流れました。この音声データはマネーロンダリングや行政機能をぶんどるといった内容のものでした。

Q： 官民連携については町と議員でお互いのせめぎ合いの中でやっていく関係があれば、色々できたと思います。そこに問題があって、見事に突かれたのではないかと考えています。襟を正してください。

A： ありがとうございます。議会、町側といずれにしても真ん中にあるのは町民のみなさんなので、町民福祉の向上、これが我々に課せられた責任でもあるし義務でもあります。肝に銘じてしっかりとやっていきたいと思っています。

Q： 町民は真ん中にいますではなく、町民は様々な方がいらっしゃいますからきちんと分かるようにお願いします。風通しが悪いと我々にもやっぱりそのとおり入ってこないと思います。分かっている人は分かって、分かってない人は分かってないです。町民を蚊帳の外にしないでください。

A： わかりました。ありがとうございます。

Q： 救急車について、お金は払ったのですか、車は完全にできあがっているのですか。

A： 12台完成しています。高規格救急車は宇都宮の工場で保管をしています。この車両12台については完成したことを職員が確認しています。今後の保管料ですが、2か月分は無料で保管してもらいます。その後は1ヶ月1台5,000円、12台で1ヶ月6万、10ヶ月ですと60万です。議会で予算の同意をいただき、その財源は企業版ふるさと納税の変更契約差額である約1,500万の中から保管料は支払う予定です。

現在、車はナンバーがついていませんので、重量税等は一切かかりません。今後、車両内に医療器具を入れたりする機装や車として走るための費用は寄附先で支払っていただく予定です。

残りの1,500万から60万引いた部分は、今後企業版ふるさと納税をした企業と使い道について相談をして、なるべく町のために役立てられるような事業に充てていきたいと考えています。

Q： この事業について、救急車を開発研究するというのは伊達地方消防組合だったら救急車もあるので分かるのですが、町自体に必要ないのですよね。リースをやるということですが、その収入が年間60万円しか入ってこないということで、本当に町の担当者が考えたのか疑問に思います。

A： この事業をやる前に、どうすべきかアンケート調査をしています。その中で、現場の意見を反映させた使いやすい高規格救急車を作りたいということで事業化をしました。

全く事前調査をしないで、担当だけでこの事業を開始したということではありません。調査をして事業実施を町が判断しました。

Q： 寄附希望の需要はある程度あるのですか。

A： 先の話になりますが、報道されてからかなりの数の問い合わせをいただいています。

Q： まだお金は払っていないという理解でしたが、もう既にお金を払ったということですか。

A： 事務手続上、まだ支払いはしていませんが当然検査は終わっていますので、請求書に基づいて30日以内に支払いをします。

Q： 支払い予定日というのはいつになるのですか。

A： 5月10日支払いの予定です。

Q： 12台のうち10台は新車で、2台は中古車だということを聞いていますが、この理由は何ですか。

A： デモなどで1回ナンバーをつけて走らせると、中古となります。ほとんど新車と一緒にです。

Q： 町民はこの件やくにみ学園について関心が高くなってきたと思います。ワンテールにやられたという声がほとんどです。

これから町民の信頼を得るためには、相当頑張っていたきたいと思います。国見町に住んで良かったなと思えなくなってしまうと思います。だからこそ前向きに考えていただきたいと思います。

A： 一番は今回の件で町民の方々にご心配をおかけしたということ、この責任というのは本当に強く感じています。その責任のとり方については、まずこの件をしっかりと対応した時点で考えたいと思っています。

もう一つその責任をとるという意味では、12年ぶりに行われた町長選挙で信任をいただいた、そちらの責任というものもありますので、いろいろと考えさせていただきたいと思います。一層国見に住んで良かったなと思ってもらえるような町政運営をしっかりと果たしていきたいと考えています。

【くにみ学園基本構想】

Q： くにみ学園の建設ありきの事業なのか？過疎の町なのだから、将来、子どもが減って桑折町や伊達市の学校と統合されかねない。そしたら学校なんか必要ないのではないか。

まず、人口を増やすことを考えるべきでないか。今の15歳未満、18歳未満の人口は？既存施設は活用できないのか？人口増加の為にはPRが大切なのではないか、トップセールスをやっていないのではないか？

A： トップセールスについては、新型感染症の為にできなかったということがあります。

子どもの数を増やす方策をとのことでありますが、くにみ学園構想は、大元は、今いる子どもの為にやるもので、その上で、くにみで学びたい、学ばせたいという人に国見の教育に共感してもらうことも方策の一つだと思っています。

子育て支援としては、他自治体に先駆け、給食費の無償化を行っています。住む場所については、国見町は公営住宅が多く、桑折町は民間アパートが多くなっています。公営住宅は福祉的な目的のものなので、若者が住みたいと思う住宅の整備の検討も必要だと考えています。駅前の整備や町有地の活用など、呼び込むための環境を作ることに今年度から着手をしたいと思っています。くにみ学園構想もそれらの政策の一つだということをご理解ください。

Q： 婚活支援をしてほしい。

A： 婚活支援としては、町では結婚世話焼き人や交流会など行っています。また、福島県の婚活支援の登録手数料の補助を実施しています。

Q： 3,000万円繰越できなかった理由、内容を知りたい。くにみ学園構想にもワンテールは関係あるのか？小学生、中学生の人数は？使わなくなる施設の活用予定は？

A： くにみ学園の基本計画策定の予算として3,000万円を令和4年度の予算に計上していました。それを令和5年度に繰越したいと議会にお願いしたところ、一般会計の繰り越し分から基本計画策定の3,000万円を抜いたもののみを認めると議会が判断しました。理由としては、基本構想が策定されていないのだから時期尚早との議会の判断です。

ワンテールと学園構想の件については、まったく関係ありません。これは町が、くにみ学園が必要と考え基本構想を作りました。ワンテールとくにみ学園を結び付けたい人がかなりいます。事務局をしていたというのは、コンソーシアムの事務

局です。

Q： 河北によると 50 億円と報道された。私が参加した学園構想の説明会では、まるで上野台に作るように説明されたように感じる。教育のほかにも予算をかける必要があるものがたくさんある。予算には限りがあるので、既存施設を活用してほしい。

A： 50 億円との話がありましたが、どこから出てきたものかはわかりません。建設場所などが決まらないと実際に係る経費はわかりません。候補地が決まっているわけではありません。事業規模や経費については、調査や検討する中でこれからということでご理解ください。

Q： 既存施設の活用は出来ないか？一か所でないとダメなのか？出来ない理由でなく、出来る方法を考えてほしい。

A： 基本構想は理念の部分になります。保護者や町民の皆さんと意見交換をさせていただき、既存施設を活用してリノベーションするのか新設するのか等についてはこれからの検討になります。

(意見)

○ ワンテーブル・起業人・コンソーシアム、言葉でいわれてもわかりにくい。もっとわかりやすくしてほしい。